JFEグループ
インベスターズ・ミーティング

2012年4月20日

JFEホールディングス代表取締役社長　馬田　一

目次

1. JFEグループ2011年度業績

2. JFEグループ2012年度業績見通し

3. JFEグループ第4次中期経営計画概要

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

1. JFEグループ2011年度業績

２０１１年度　業績概要

（単位：万t、億円）

	2010年度 合計(A)	2011年度 上期	2011年度 下期	2011年度 合計(B)	増減 (B−A)	2011年度 前回公表(C)	増減 (C−B)
（単独粗鋼）	2,880	1,365	1,325	2,690	△190	2,700	△10
連結粗鋼	3,147	1,468	1,455	2,924	△223	2,900	24
売上高	31,955	15,693	15,972	31,665	△290	32,000	△335
鉄鋼事業	1,342	377	△120	257	△1,085	200	57
ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	122	10	133	143	21	140	3
造船事業	171	110	12	122	△49	90	32
その他事業	9	6	9	15	6	10	5
調整	11	1	△10	△9	△20	△40	31
経常利益計	1,658	506	23	529	△1,129	400	129
特別損益	△505	△940	△308	△1,248	△743	△1,300	52
税前利益	1,152	△434	△284	△718	△1,870	△900	182
税・少数持分	△566	191	161	352	918	500	△148
当期純利益	586	△243	△123	△366	△952	△400	34

特別損失について

特別損益内訳　　（単位：億円）

	2011年度実績		
	上期	下期	年間
投資有価証券売却益		93	93
投資有価証券評価損	▲ 810	▲ 82	▲ 892
災害損失	▲ 129	11	▲ 118
年金制度移行 一時損失		▲ 156	▲ 156
排出権関連損失		▲ 73	▲ 73
減損損失		▲ 62	▲ 62
購買契約解約損		▲ 38	▲ 38
特別損益　計	▲ 940	▲ 308	▲ 1,248

○大半が投資有価証券評価損など会計上の処理。

○年金：制度変更（確定給付⇒確定拠出）に伴う債務の一括処理、
CO2排出権：時価評価、購買契約解約損：ソーラーシリコン原料

2. JFEグループ2012年度業績見通し

2012年度　連結業績見通し

鉄鋼事業におきまして、主原料価格については契約期間の短縮化により、また鋼材販売価格については交渉中であることから、ともに将来の見通しを作成することが困難な状況であり、合理的な業績予想の算定ができないため、連結業績見通しは未定としております。

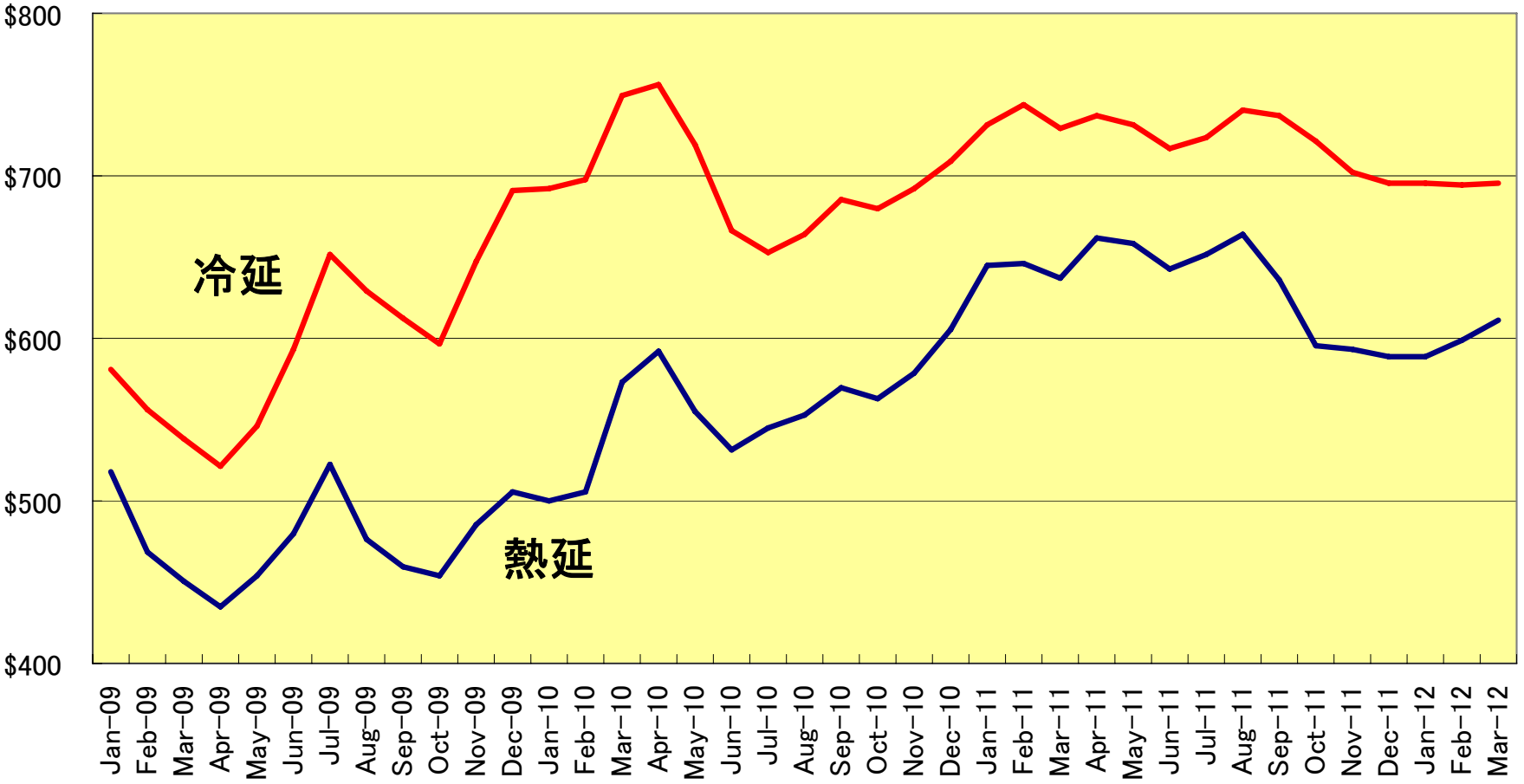
JFEスチール
2012年度　連結業績見通し参考資料

至近の生産状況について

	2011年 1月～3月	2011年 4月～6月	2011年 7月～9月	2011年 10月～12月	2012年 1月～3月	2012年 4月～6月 （生産計画）
粗鋼量（百万t）	7.2	6.7	6.9	6.7	6.6	**7.0**
自動車 生産台数 （百万台）	1.9 （90%（前年比））	1.5 （70%）	2.3 (90%）	2.6 (110%)	2.8 (150%)	**2.3 (150%)**
国内他分野	堅調	↘	↗	→	→	→
輸出	通常	通常 →需給軟化	⇒	鈍化	鈍化→ 緩やかな 回復期待	**緩やかな 回復基調**
為替レート (円/$)	81.8	82.0	78.4	77.5	77.7（12月末） 82.2（3月末）	**81 （至近)**

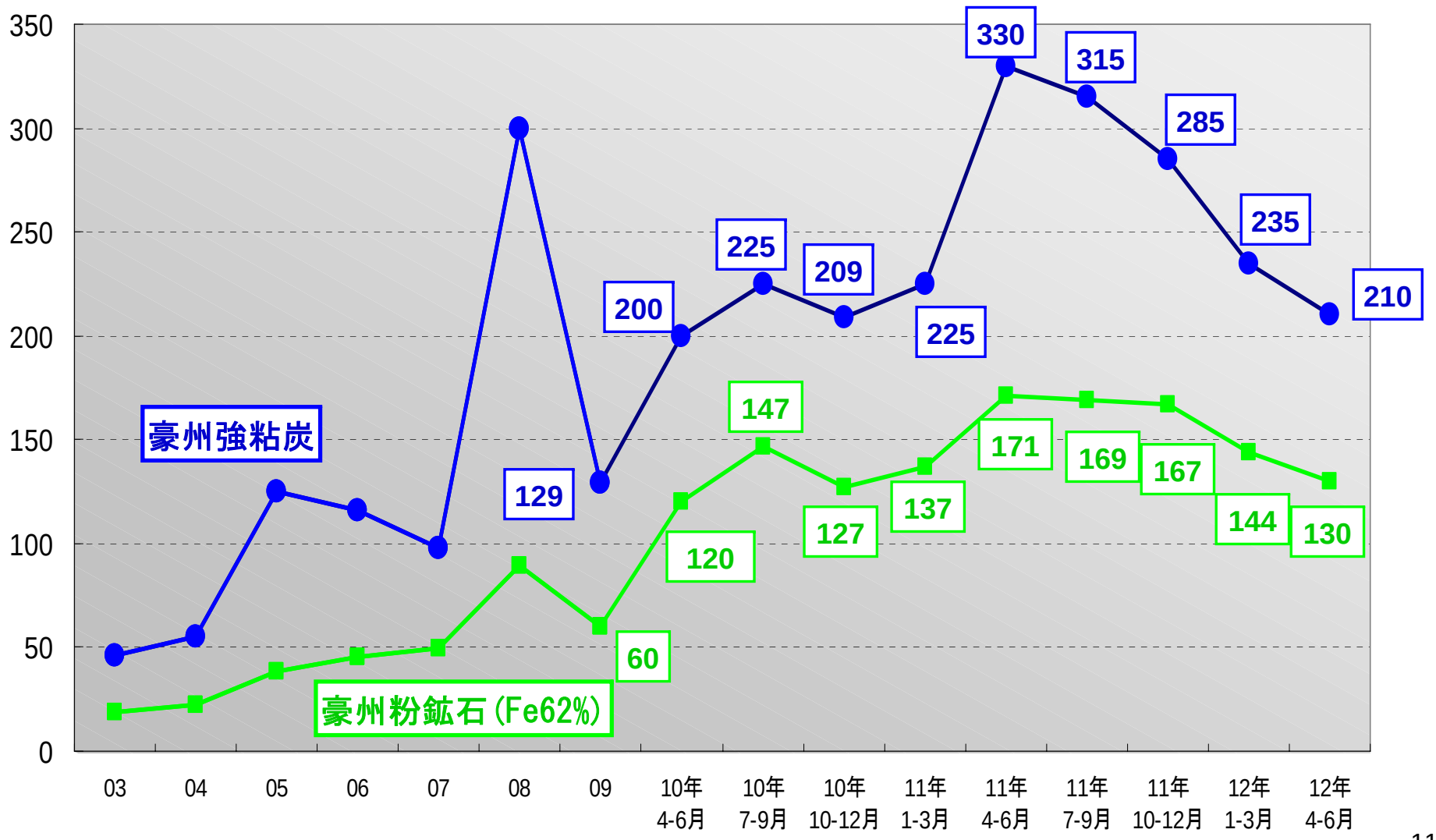
輸出販売環境(中国薄板価格)

中国薄板市況は緩やかに上昇の動き。

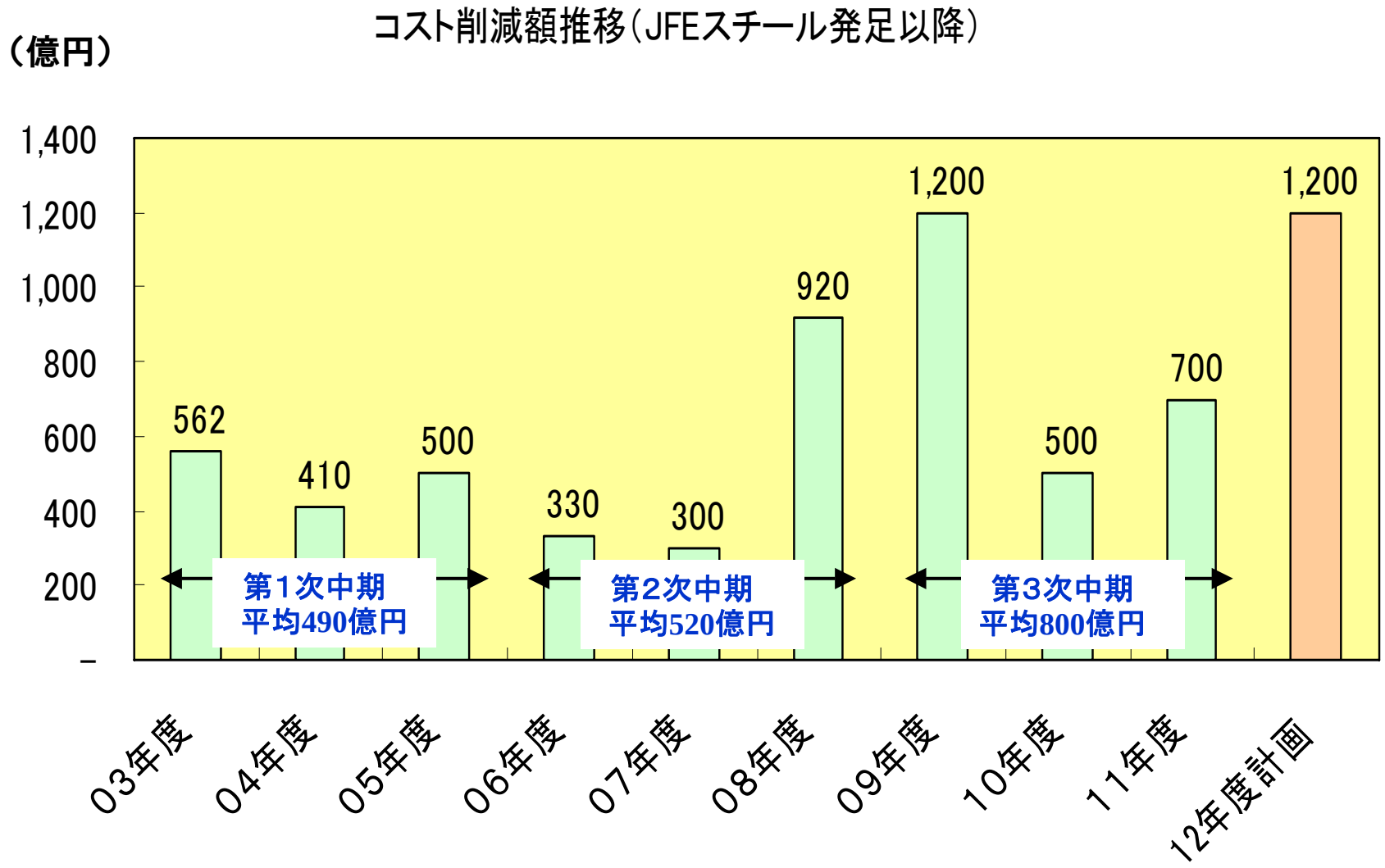


Notes: Figures does not include value-added tax. Prices are average from 21 regions of China.

主原料価格推移


(US$/T)
350
300
250
200
150
100
50
0
豪州強粘炭
豪州粉鉱石(Fe62%)
129
200
225
209
225
330
315
285
235
210
60
120
147
127
137
171
169
167
144
130
03
04
05
06
07
08
09
10年 4-6月
10年 7-9月
10年 10-12月
11年 1-3月
11年 4-6月
11年 7-9月
11年 10-12月
12年 1-3月
12年 4-6月

コスト削減の徹底（鉄鋼事業）



2012年度償却費・設備投資予想額

スチール連結ベース

（単位：億円）

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度（予想）
償却費	2,300	2,300	2,300	1,900
設備投資 ※	2,100	1,600	1,800	1,600

※投融資は含まず、工事ベース

・大規模投資は2010年度に終了。
・償却費は税制の関係を中心に2012年度には400億円削減予定。
・今後は国内設備投資から、新興国への投資・原料投資にシフト。

3. JFEグループ
第4次中期経営計画概要

JFEグループ　基本的な方針

～JFEグループ創立10周年を迎えるに当り、
　創設の原点に立ち帰る～

①国内収益基盤の更なる強化。

②革新的な技術開発・画期的な新商品開発。

③持続的な成長のための企業体質確立。

④新興国に経営資源を集中投入。

⇒2014年度目標：

　連結売上高　4兆円、ROS10%

JFEグループ　共通施策

①国内収益基盤の再構築

②技術優位性による企業価値拡大

③積極的な投資の継続

⇒投資総額（2012～2014年度累計）1兆円

④グローバルマーケットでのプレゼンス拡大。

⇒海外投資比率　50%程度（前中期実績25%）

⑤持続的な成長のための企業体質強化。

1）CSR推進とコーポレートガバナンス

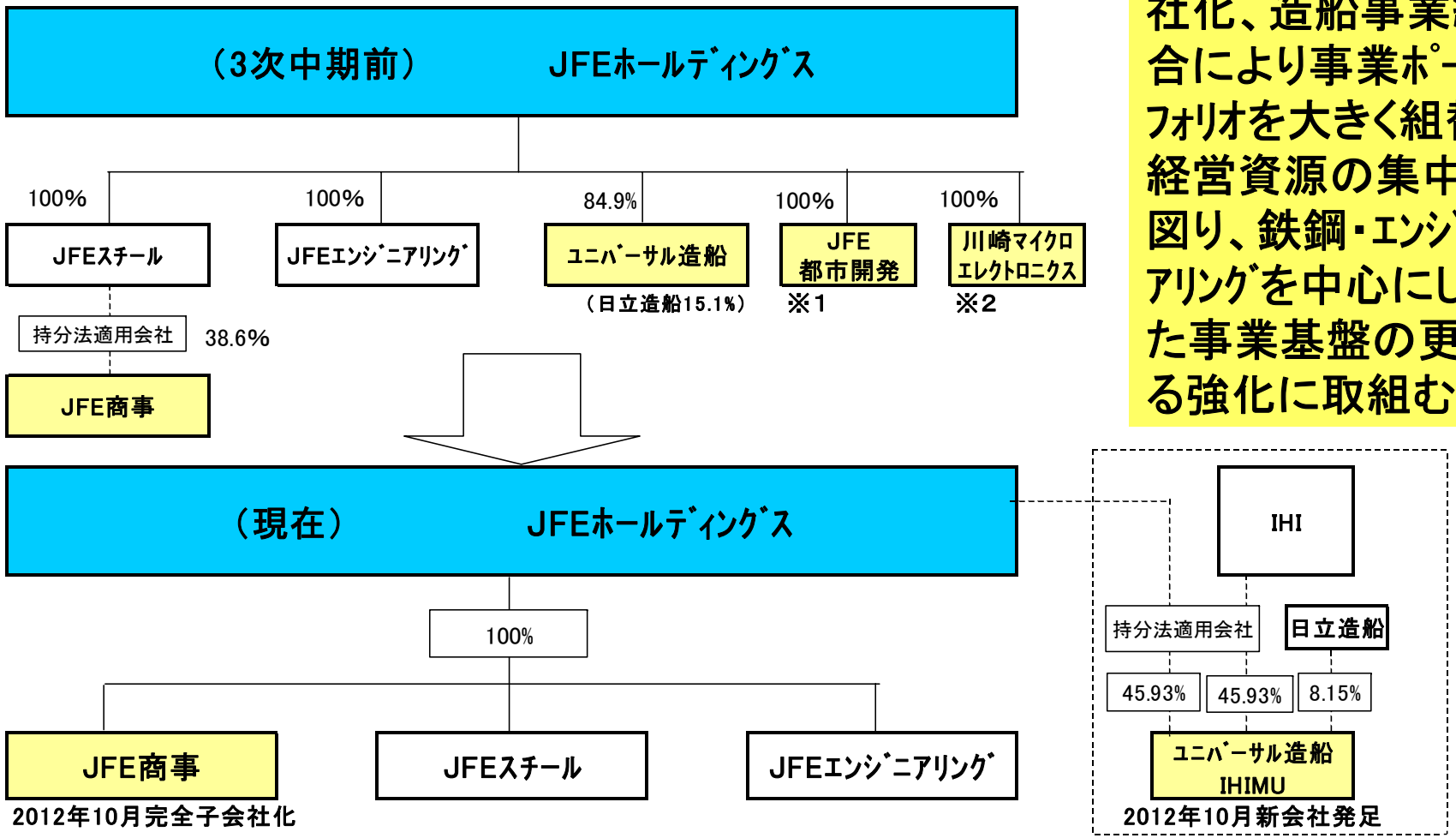
2）環境経営の徹底

3）グローバル人材の確保と育成（ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨの推進）

4）財務体質の強化と株主還元(配当性向25%)

事業ポートフォリオの再編

JFE商事完全子会社化、造船事業統合により事業ポートフォリオを大きく組替。経営資源の集中を図り、鉄鋼・エンジニアリングを中心にした事業基盤の更なる強化に取組む。



※1　JFE都市開発：2011年4月にJFEスチールに合併
※2　2009年度にファブレス化。2012年4月20日、メガチップス社への売却を公表（後述）。

鉄鋼事業（JFEスチール）＜中長期的に目指す姿＞

①「世界有数のグローバル鉄鋼サプライヤーとして広く認知され、世の中に誇れる会社」を目指す。

②高級鋼に加え、新興国での需要増加が見込まれる分野を、技術協力やアライアンス等多面的な施策により取り込み

⇒事業規模　将来的に5000万t/年を視野に

5年後目標：4000万t/年

③お客様に選ばれる商品力を更に強化。

鉄鋼事業（JFEスチール）＜具体的な施策＞

①お客様に選ばれる商品拡販に向けた販売戦略・商品戦略

②世界をリードする技術の高度化とコスト競争力強化

③海外事業戦略の積極的推進

〇輸出主導型から輸出と海外現地生産の両輪戦略へ

〇ベトナム一貫製鉄所プロジェクトの本格FS開始（詳細後述）

④競争力ある原料購買戦略実行

自社原料権益比率目標　30%（従来どおり）

ベトナムでの製鉄所建設に関するFSの実施（2012年3月27日公表）

JFEスチールはメジャーシェアで参画する前提でFSを実施することについてE-Unitedグループと MOUを締結。2012年内を目処に事業性が確認できれば事業を実施。

＜FSの前提＞

□事業目的　　鋼材需要が拡大しているベトナムの内需および東南アジアの外需を捕捉

□事業形態　　JFEスチールのメジャーシェア
E-Unitedグループと共同で事業運営

□建設予定地　ｸﾜﾝｶﾞｲ省ｽﾞﾝｸﾜｯﾄ工業団地
（当団地内に既に確保。場所の詳細は次頁）

□粗鋼能力　　年間3.5百万t 程度

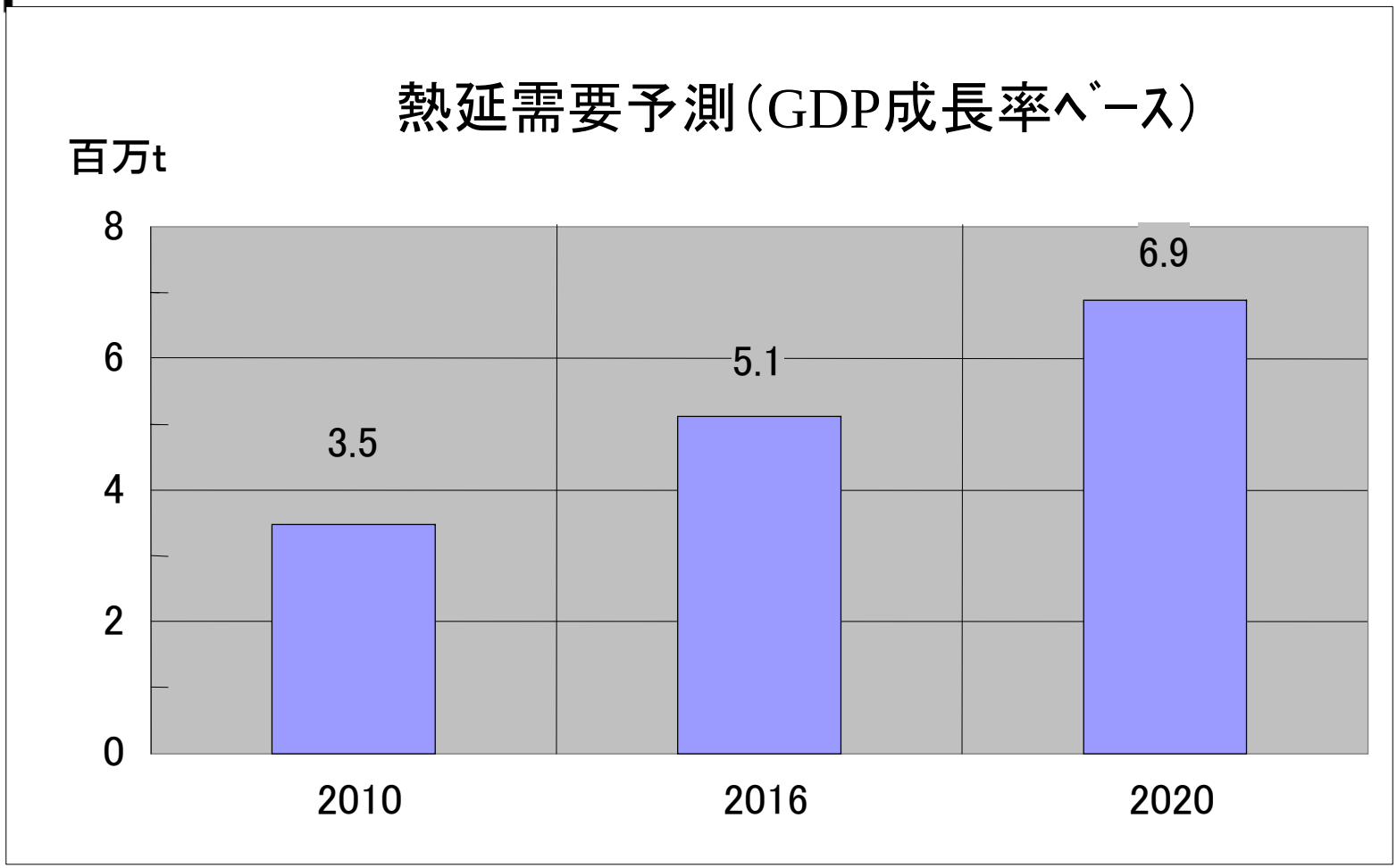
□製造品種　　主として薄板

□スケジュール　2016年より稼動を想定

※投資ﾗｲｾﾝｽはE-Unitedｸﾞﾙｰﾌﾟがすでに取得済み。

（参考）ベトナム高炉一貫プロジェクト建設予定地（ｽﾞﾝｸﾜｯﾄ工業団地）

（参考）ベトナムの熱延需要予測



2010年の数値はSEAISIによる集計。2016年、2020年はIMF公表のGDP成長率等※から当社が作成。
※2011年5.8%、2012～2015年6.3%、2016年7.5%（IMFﾍﾞｰｽ）、2017～2020年は2016年並みと想定

中国 中国での事業拡大（広州JFE鋼板有限公司）

出資比率：JFEスチール　50%、広州薄板有限公司　50%

冷延ライン	1基	180万t/年
連続焼鈍ﾗｲﾝ	1基	100万t/年
溶融亜鉛めっきﾗｲﾝ	2基	80万t/年

＜最近の動き＞

①2010・2011年度単年度黒字

②PL－TCM稼動：2011年5月

③CAL稼動：2011年7月

④2CGL稼動：2012年3月

⑤中国側出資者が広州鋼鉄から宝鋼連結子会社（実質51%出資）の広州薄板へ変更：2012年4月

⇒宝山の販売ﾈｯﾄﾜｰｸの活用が可能になる。

東南アジア

タイにおける自動車用溶融亜鉛鍍金ライン建設
（2010年10月22日発表）

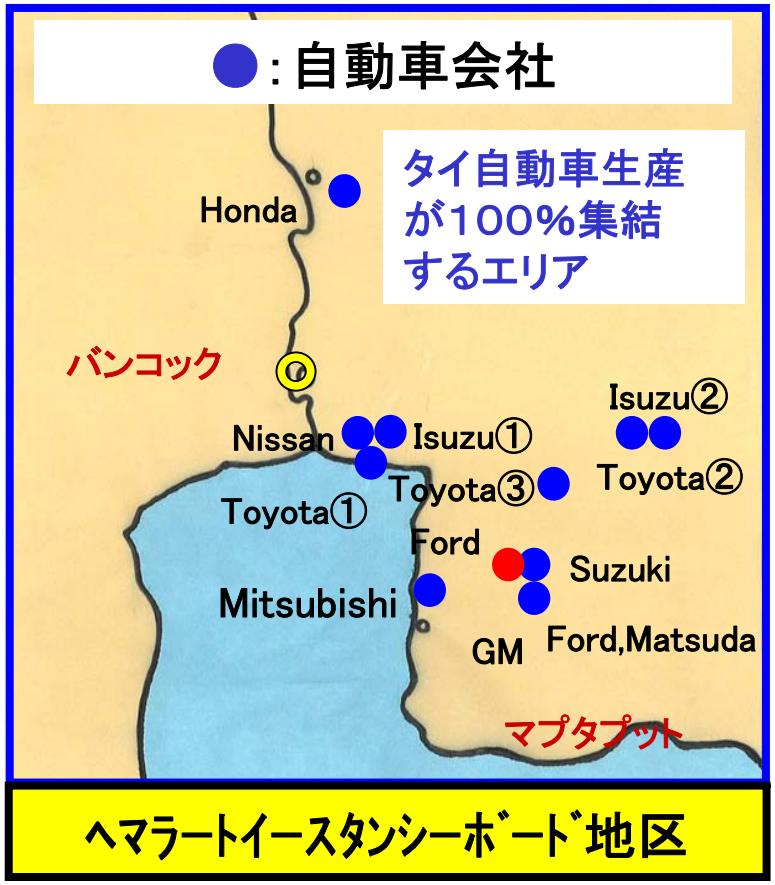
（会社名：JFE Steel Galvanizing (Thailand) Ltd.）

①高級自動車用鋼板の「需要増」&「現地調達化」対応でタイで最初の自動車用溶融亜鉛メッキラインを建設。

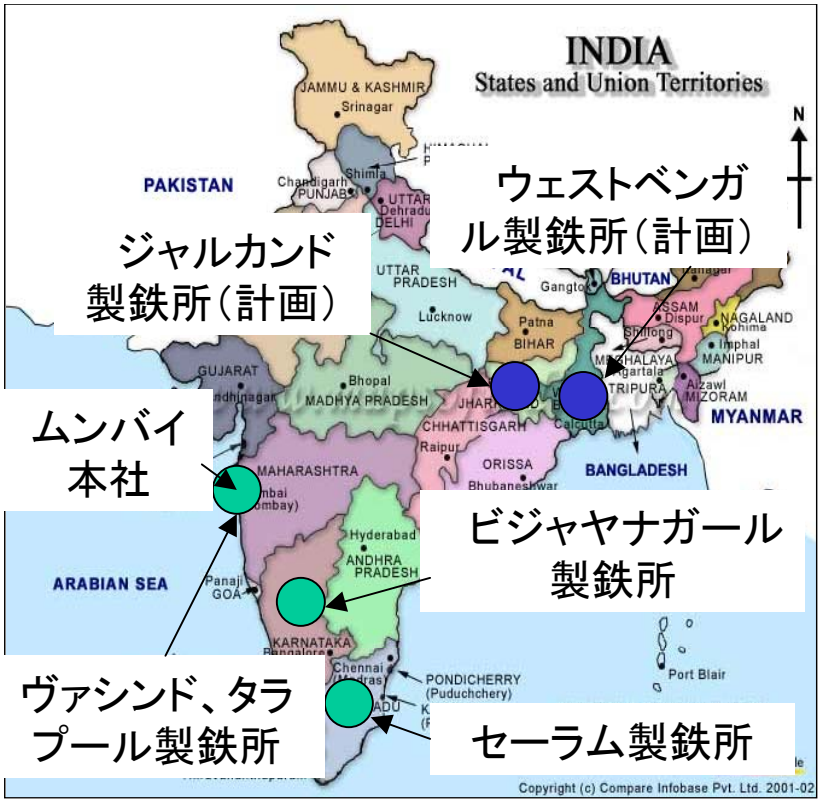
②自動車生産の中心に立地

③40万トン/年

④2013年4月稼動予定
（洪水影響も無く順調に進捗）



インド JSW社との戦略的提携拡大



＜最近の動き＞

①出資比率を15%に引き上げ持分法適用会社に
（2012年2月14日公表）

②JSWが無方向性電磁鋼板への進出を決定
（2012年3月12日公表）

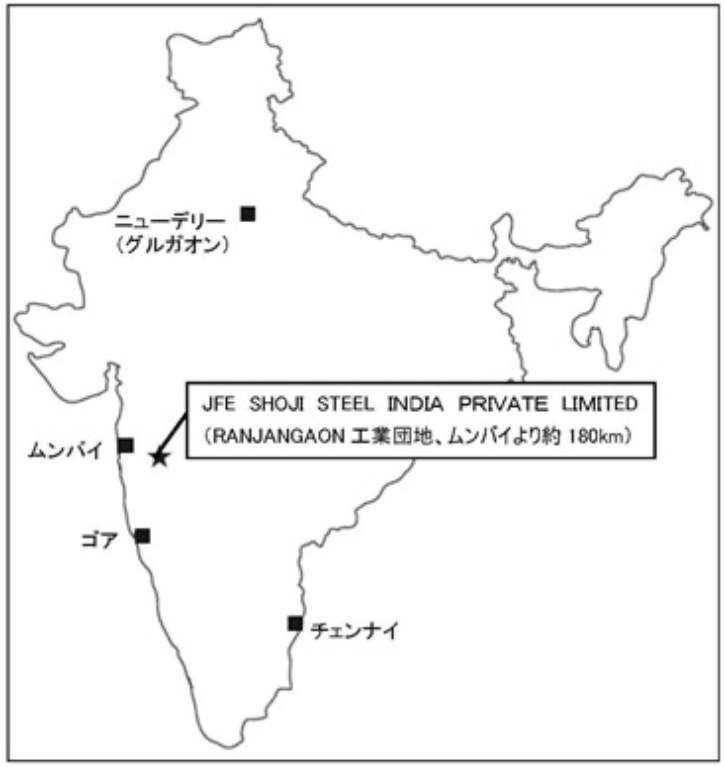
＜今後の課題＞：

①冷延設備建設中
（2013年秋稼動予定）

②ウェストベンガル製鉄所への参画検討中

インドにおけるコイルセンター設立（JFE商事）

（2011年7月6日発表）



①会社名：JFE SHOJI STEEL INDIA PRIVATE LIMITED

②所在地：インド・マハラシュトラ州プネ市RANJANGAON工業団地内

③総投資額：約13億円
（JFE商事グループ100%）

④事業内容：電磁鋼板・薄板類の加工販売及び販売

⑤加工能力：34,000ﾄﾝ／年

⑥販売計画：2014年　20,000ﾄﾝ／年

JFE商事コイルセンター海外展開　合計15ケ所：

中国（5ヵ所）、シンガポール、台湾、タイ（2ヵ所）、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、メキシコ、インド（今回）

エンジニアリング事業（JFEエンジニアリング）

＜基本方針＞

◎環境・エネルギー分野を中心に堅固な経営基盤確立し、この分野でのリーディングカンパニーを目指す。

＜海外事業拡大＞

①ゴミ焼却炉、廃熱回収ﾎﾞｲﾗｰ、水処理プラントなどで欧州・アジアを中心とした海外比率を拡大。

＜海外受注比率　2011年度：5%⇒2014年度：10%以上＞

②新商品の創出と早期市場投入。

（バラスト水処理、サイクルツリー、および地熱発電等の再生可能エネルギー分野）

＜新商品受注比率　2011年度：2%⇒2014年度：8%（4倍増）＞

③上記課題の達成に向けて、積極的にM&Aを活用。

JFEエンジニアリングの都市環境プラント事業

①2011年度大型都市環境プラントを4件受注（市場シェア約50%）。

②自社開発のハイパーZシリーズによる国内トップクラスの発電効率と大幅なCO2削減等の低環境負荷性能が入札で高評価。

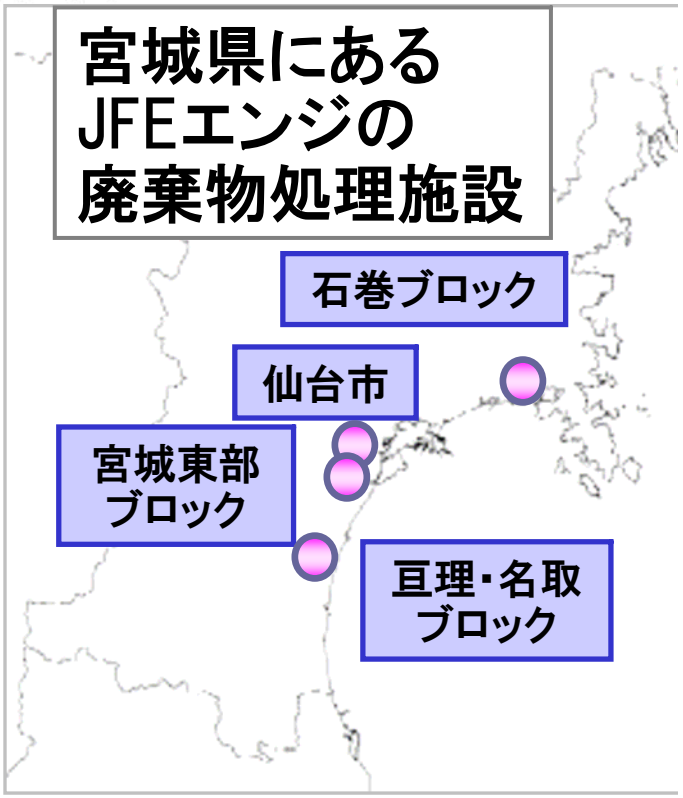
福岡都市圏南部環境事業組合
（2011年8月受注）510t/日

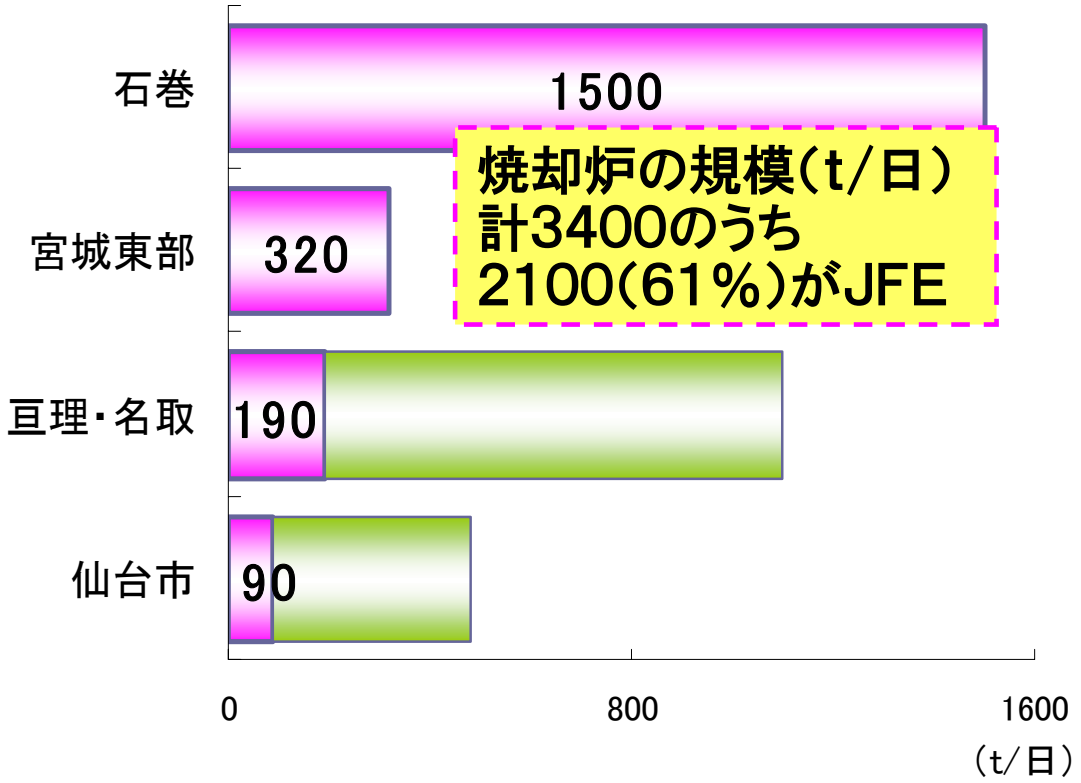
豊中市伊丹市クリーンランド
（2011年11月受注）525t/日

高岡地区広域圏事務組合
（2012年1月受注）255t/日

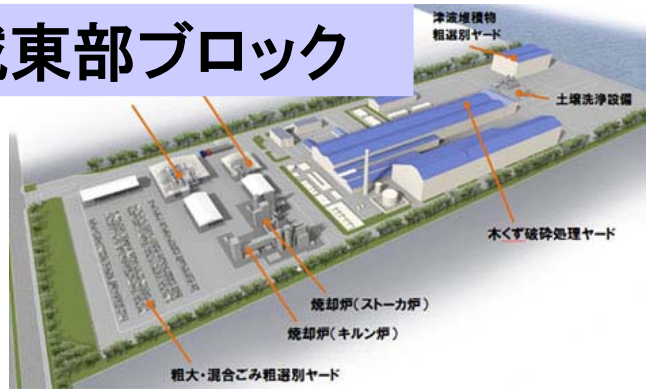
熊本市新西部環境工場
（2012年3月受注）280t/日

宮城県内の震災廃棄物の6割をJFEエンジが処理





宮城東部ブロック



仙台市

造船事業（ユニバーサル造船）

①IHI-MUとの統合(2012年10月予定)シナジーの早期発現。

⇒韓国大手造船会社と競える総合力業界トップの地位確立。

②商品ラインナップの拡充と生産性の向上。

・商品ラインアップの拡充と新商品開発のスピードアップ。

・造船所毎の船種集約による生産性向上、資機材調達力拡大などによるコスト削減の徹底。

③次世代環境対応船（燃費性能世界No.1）開発。

ユニバーサル造船の技術優位性

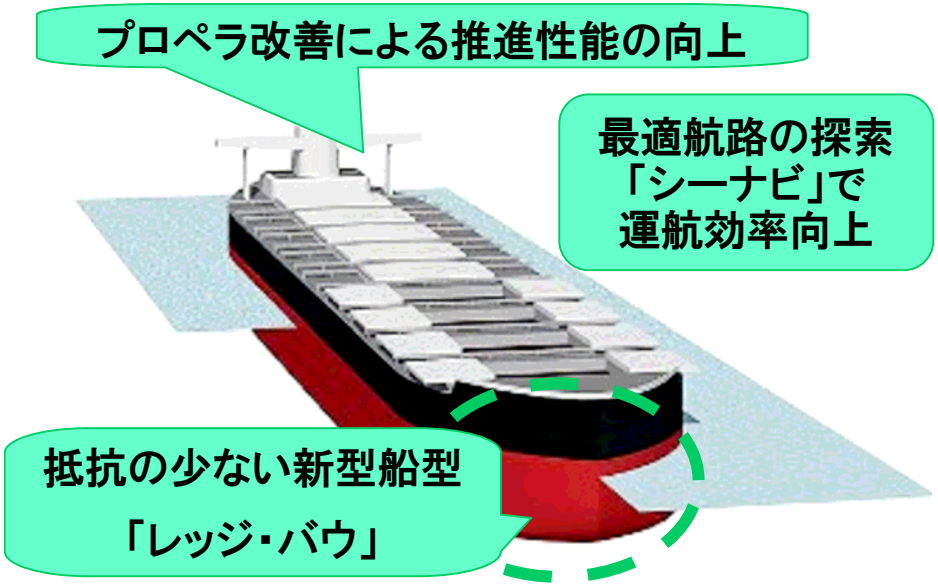
○次世代船開発部の設置効果によるGシリーズ受注開始。

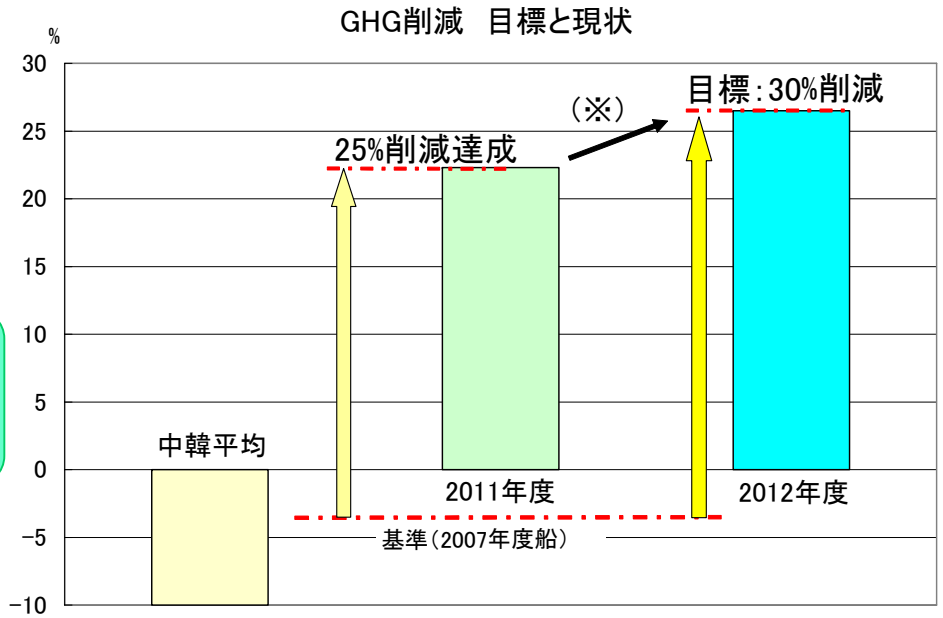
燃費(≒CO_2) 削減目標　2011年度：△ 25%達成（2010年度比）

⇒2012年度：△ 30%削減、2020年度　△　50%削減

次世代船："G"（グリーン）シリーズ

世界最高の燃費性能
（温室効果ガス25%削減）





（※）　削減量5%アップの内訳：

推進性能改善、主機燃費改善、廃熱回収

レッジ・バウ等の開発により ものづくり日本大賞 内閣総理大臣賞受賞（2011年）

LSI事業（川崎マイクロエレクトロニクス）の株式譲渡に関する基本合意（2012年4月20日発表）

①譲渡先：株式会社メガチップス

・所在地：大阪（東証1部上場）・資本金：48億円
・設立：　1990年　　・従業員：274人

②譲渡理由：2009年の宇都宮工場閉鎖以降、ファブレスLSIメーカーとして運営してきた（2010年度、2011年度黒字）が、将来にわたり事業を維持・拡大するための戦略提携の可能性を検討してきた。この度、技術・市場ともに相互補完的な位置付けにあり、最適と判断。

③譲渡価額：85億円（予定）

④基本合意内容（今後の予定）：

5月下旬に株式売買契約書を締結。
6月下旬頃に発行済み全株式を譲渡し、完全子会社化。

JFEグループ連結財務目標

①2014年度連結　　売上高　4兆円
　　ROS　　10%

②総投資額　　1兆円(承認ﾍﾞｰｽ)
　内、海外投資比率　50%程度
　　(3次中期実績　25%)

③国際格付A格相当の財務体質実現

④配当性向　　25%の継続